

令和2年1-3月期中小企業景気動向調査結果

業況DIは1.9ポイントの低下

公益財団法人神奈川産業振興センター（KIP）が四半期ごとに実施している「中小企業景気動向調査」の令和2年1-3月期の調査結果をまとめましたので、ご報告いたします。

1. 調査要領

- ・調査時期：令和2年2月
- ・調査対象：神奈川県内中小企業2,000社
- ・回答数（率）：1,004社（50.2%） ※詳細は下記の通り
- ・調査方法：調査対象へ郵送
- ・分析方法：DI（Diffusion Index）※による分析

※業況等について「良い」と回答した企業の割合から「悪い」と回答した企業の割合を引いた数値

区分	送付数	回答数	回答率（%）
製造業	550	356	64.7%
建設業	250	123	49.2%
商業・サービス業 （卸売業、小売業、飲食店、サービス業）	1,200	525	43.8%
合計	2,000	1,004	50.2%

2. 調査結果

(1) 総合

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲20.3	▲27.9	▲33.5	▲35.4	▲37.8	▲37.3
売上DI	▲18.9	▲25.7	▲24.8	▲35.0	—	—
採算DI	▲25.6	▲31.7	▲31.8	▲35.1	—	—

総合の業況DIは、前期比1.9ポイント低下の▲35.4となった。

経営状況では、売上DIは前期比10.2ポイント低下の▲35.0、また、採算DIは同3.3ポイント低下の▲35.1となった。

今後の業況DIを見ると、3ヵ月後は現在比2.4ポイント低下の▲37.8、半年後は同1.9ポイント低下の▲37.3を見込んでいる。

(2) 業種別特徴

<製造業>

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲14.7	▲24.1	▲30.7	▲39.4	▲41.4	▲36.3
売上DI	▲19.3	▲25.1	▲27.0	▲36.3	—	—
採算DI	▲24.2	▲28.8	▲29.9	▲36.4	—	—

製造業の今期の業況DIは、前期比8.7ポイント低下の▲39.4となった。経営状況では、売上DIは、前期比9.3ポイント低下の▲36.3、採算DIは同6.5ポイント低下の▲36.4となった。「輸出関係が不調。」「自動車産業全般が世界的に不況。コロナウイルス、天変地異の影響が心配。」「中国での新車販売不振が影響している。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3ヵ月後は現在比2.0ポイント低下の▲41.4、半年後は同3.1ポイント上昇の▲36.3を見込んでおり、「半導体関連の受注が昨年ごろから徐々に減少しはじめ、今年の秋口頃になってようやく回復の兆しが見えてくると思われれます。」「新規受注が見込めるのでG/W以降仕事量が回復。新製品の受注で設備稼働回復。」「人材、設備、バックオフィスに対する先行投資が実を結んできた。」といった声も聞かれた。

なお、製造業の中分類の業況DIは以下の通り。

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
一般機械	▲8.5	▲17.9	▲31.5	▲39.3	▲37.5	▲36.4
電気機械	▲22.6	▲33.3	▲35.8	▲32.4	▲40.5	▲29.2
輸送用機械	0.0	▲23.6	▲32.3	▲47.5	▲55.9	▲46.6
その他	▲21.4	▲23.4	▲26.2	▲39.7	▲38.0	▲35.7

中分類で見ると、一般機械は前期比7.8ポイント低下の▲39.3、電気機械は同3.4ポイント上昇の▲32.4、輸送用機械は同15.2ポイント低下の▲47.5となった。

今後の業況DIは、3ヵ月後は一般機械が現在比1.8ポイント上昇の▲37.5、電気機械が同8.1ポイント低下の▲40.5、輸送用機械は同8.4ポイント低下の▲55.9、半年後は一般機械が同2.9ポイント上昇の▲36.4、電気機械が同3.2ポイント上昇の▲29.2、輸送用機械は同0.9ポイント上昇の▲46.6を見込んでいる。

<建設業>

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	0.8	1.7	3.1	11.5	▲19.0	▲29.3
売上DI	▲11.2	▲7.8	0.8	▲4.1	—	—
採算DI	▲9.8	▲13.0	▲4.6	▲6.6	—	—

建設業の今期の業況DIは、前期比8.4ポイント上昇の11.5となった。

経営状況では、売上DIは前期比4.9ポイント低下の▲4.1、採算DIは同2.0ポイント低下の▲6.6となった。

「1月～3月期は、企業の年度末にあたり、毎年仕事量は増えます。が、4月からの受注状況が不透明です。」「毎年のこの時期に大学の外構工事を、受注しているのに加え他の仕事もあり、好調であった。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3ヵ月後は現在比30.5ポイント低下の▲19.0、半年後は同40.8ポイント低下の▲29.3を見込んでおり、「建設業界は、オリンピックを境に不況に陥ると言われています。少し不安です。」「5月以降の仕事量が少ない。」「4月からの見通しが、全く立たない。」「引き合いそのものが減少しているので、営業を強化して行くしかない。また受注物件は細部にわたりシビアに取り組んでいく。」といった声も聞かれた。

<商業・サービス業>

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
業況DI	▲29.9	▲37.1	▲44.6	▲43.6	▲39.5	▲39.8
売上DI	▲20.6	▲30.2	▲29.6	▲41.5	—	—
採算DI	▲30.8	▲37.9	▲40.1	▲41.0	—	—

商業・サービス業の業況DIは、前期比1.0ポイント上昇の▲43.6となった。

経営状況では、売上DIは前期比11.9ポイント低下の▲41.5、採算DIは同0.9ポイント低下の▲41.0となった。「消費税増税の影響で、消費が落ち込んでいる。」「贈答用の高価格品が売れている事が良好な要因と思われる。」「ラグビーワールドカップの効果あり。本年のオリンピックもプラス要因。」「客単価の増加により、売上も少し増えているが、肉の仕入が高く資金繰りが大変。カード利用のお客様が増えてきた。オリンピックの終わった後が心配。」といった声も聞かれた。

今後の業況DIは、3ヵ月後は現在比4.1ポイント上昇の▲39.5、半年後は同3.8ポイント上昇の▲39.8を見込んでいる。「新型コロナウイルスによる外国人観光客減少が心配。」「中国の新型肺炎の影響がこれからどのように出て来るか景気の見通しが不透明。」「良いサービスがお客様のリピートに繋がっている。同業の人手不足による注文増の面もあるかもしれない。今後もこの傾向は続く見込み。」といった声も聞かれた。

なお、商業・サービス業の各々の業況DIは以下の通り。

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
卸売業	▲16.9	▲16.1	▲34.8	▲44.0	▲51.5	▲46.4
小売業	▲49.8	▲55.0	▲58.0	▲56.8	▲54.8	▲56.9
飲食店	▲10.8	▲40.0	▲53.5	▲55.0	▲46.7	▲41.7
サービス業	▲13.5	▲18.2	▲23.9	▲17.3	▲3.6	▲2.5

業種別では、卸売業は前期比9.2ポイント低下の▲44.0、小売業は同1.2ポイント上昇の▲56.8、飲食店は同1.5ポイント低下の▲55.0、サービス業は同6.6ポイント上昇の▲17.3となった。

今後の業況DIは、3ヵ月後では卸売業が現在比7.5ポイント低下の▲51.5、小売業は同2.0ポイント上昇の▲54.8、飲食店は同8.3ポイント上昇の▲46.7、サービス業は同13.7ポイント上昇の▲3.6、半年後では卸売業が同2.4ポイント低下の▲46.4、小売業は同0.1ポイント低下の▲56.9、飲食店は同13.3ポイント上昇の▲41.7、サービス業は同14.8ポイント上昇の▲2.5を見込んでいる。

(3) 規模別特徴

		令和元年			令和2年		
		4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
中規模	業況DI	▲14.2	▲24.0	▲30.4	▲32.5	▲33.5	▲32.6
	売上DI	▲12.7	▲21.9	▲20.0	▲27.9	—	—
	採算DI	▲22.4	▲31.3	▲31.9	▲33.6	—	—
小規模	業況DI	▲27.2	▲32.7	▲37.1	▲38.6	▲42.6	▲42.6
	売上DI	▲26.0	▲30.3	▲30.3	▲42.9	—	—
	採算DI	▲29.2	▲32.1	▲31.8	▲36.9	—	—

規模別の業況DIは、中規模企業は前期比2.1ポイント低下の▲32.5、小規模企業は同1.5ポイント低下の▲38.6となった。

経営状況では、中規模企業は売上DIが前期比7.9ポイント低下の▲27.9、採算DIが同1.7ポイント低下の▲33.6、小規模企業は売上DIが同12.6ポイント低下の▲42.9、採算DIが同5.1ポイント低下の▲36.9となった。

今後の業況DIについては、中規模企業は3ヵ月後が現在比1.0ポイント低下の▲33.5、半年後が同0.1ポイント低下の▲32.6、小規模企業は3ヵ月後が同4.0ポイント低下の▲42.6、半年後が同じく▲42.6を見込んでいる。

(4) 地区別特徴 (業況DI)

	令和元年			令和2年		
	4-6月期	7-9月期	10-12月期	1-3月期	4-6月期 見込	7-9月期 見込
横浜	▲18.7	▲21.9	▲29.3	▲31.7	▲40.9	▲41.4
川崎	▲12.9	▲23.4	▲27.2	▲27.2	▲27.6	▲33.6
横須賀	▲19.4	▲25.5	▲35.8	▲46.0	▲37.0	▲32.3
平塚	▲22.3	▲30.2	▲29.1	▲33.7	▲37.2	▲41.5
藤沢	▲22.2	▲39.2	▲49.5	▲44.2	▲45.7	▲39.8
相模原	▲23.4	▲28.9	▲36.8	▲34.4	▲36.7	▲35.2
厚木	▲15.9	▲20.9	▲23.4	▲26.9	▲25.5	▲26.0
足柄上・西湘	▲34.0	▲46.5	▲47.1	▲48.1	▲50.5	▲43.6

今期の地区別の業況DIは、

横浜地区（前期比2.4ポイント低下の▲31.7）、川崎地区（前期と同じ▲27.2）、横須賀地区（同10.2ポイント低下の▲46.0）、平塚地区（同4.6ポイント低下の▲33.7）、藤沢地区（同5.3ポイント上昇の▲44.2）、相模原地区（同2.4ポイント上昇の▲34.4）、厚木地区（同3.5ポイント低下の▲26.9）、足柄上・西湘地区（同1.0ポイント低下の▲48.1）となり2地区で上昇し、1地区で前期と同じ、5地区で低下となった。

今後の業況DIは、3か月後は、

横浜地区（現在比9.2ポイント低下の▲40.9）、川崎地区（同0.4ポイント低下の▲27.6）、横須賀地区（同9.0ポイント上昇の▲37.0）、平塚地区（同3.5ポイント低下の▲37.2）、藤沢地区（同1.5ポイント低下の▲45.7）、相模原地区（同2.3ポイント低下の▲36.7）、厚木地区（同1.4ポイント上昇の▲25.5）、足柄上・西湘地区（同2.4ポイント低下の▲50.5）となり2地区で上昇し、6地区で低下すると見込んでいる。

半年後は、

横浜地区（現在比9.7ポイント低下の▲41.4）、川崎地区（同6.4ポイント低下の▲33.6）、横須賀地区（同13.7ポイント上昇の▲32.3）、平塚地区（同7.8ポイント低下の▲41.5）、藤沢地区（同4.4ポイント上昇の▲39.8）、相模原地区（同0.8ポイント低下の▲35.2）、厚木地区（同0.9ポイント上昇の▲26.0）、足柄上・西湘地区（同4.5ポイント上昇の▲43.6）となり4地区で上昇し、4地区で低下すると見込んでいる。

▼本件に関するお問い合わせ先

(公財) 神奈川産業振興センター (KIP)

(Kanagawa Industrial Promotion Center)

事業部経営総合相談課 藤井

TEL:045-633-5201 FAX:045-633-5194

URL <https://www.kipc.or.jp/> E-mail:soudan@kipc.or.jp

景気動向調査 (令和2年1月～3月期)

業種別DI表

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数		356	123	100	223	62	140	525	1,004
業況判断	現在の業況	▲39.4	11.5	▲44.0	▲56.8	▲55.0	▲17.3	▲43.6	▲35.4
	3ヶ月後の業況	▲41.4	▲19.0	▲51.5	▲54.8	▲46.7	▲3.6	▲39.5	▲37.8
	半年後の業況	▲36.3	▲29.3	▲46.4	▲56.9	▲41.7	▲2.5	▲39.8	▲37.3
経営状況	売上	▲36.3	▲4.1	▲45.0	▲52.5	▲56.5	▲11.3	▲41.5	▲35.0
	採算	▲36.4	▲6.6	▲35.4	▲45.3	▲61.3	▲28.6	▲41.0	▲35.1
	引き合い/客数	▲30.1	▲11.6	▲26.3	▲53.8	▲51.6	▲27.9	▲41.4	▲33.8
	単価	▲11.9	▲1.7	▲21.9	▲33.8	▲26.7	▲28.5	▲29.3	▲19.7
	仕入価格	▲32.7	▲30.6	▲33.7	▲39.4	▲56.5	▲26.5	▲36.9	▲34.6
	資金繰り	▲27.5	▲10.8	▲25.3	▲40.4	▲46.8	▲28.5	▲35.1	▲29.5
	残業	▲31.3	▲8.4	▲24.7	▲25.0	▲27.6	▲30.7	▲26.8	▲26.2
	設備稼働	▲32.4	▲9.5	—	—	—	—	—	▲26.7
前期経営実績	売上水準	▲22.3	4.1	▲21.0	▲40.7	▲37.7	▲19.7	▲31.0	▲23.6
	利益水準	1.4	15.7	7.0	▲35.0	▲24.6	▲18.4	▲21.3	▲8.8
	在庫	9.6	▲0.9	13.1	6.3	▲1.7	▲30.3	▲2.7	1.9
	投資	▲10.8	▲8.0	▲10.4	▲15.7	▲21.3	▲23.9	▲17.6	▲14.0
	雇用状況	▲16.1	▲51.3	▲16.8	▲10.4	▲25.0	▲24.8	▲17.3	▲20.9

参考<前回調査> 景気動向調査 (令和元年10月～12月期)

		製造業	建設業	商業・サービス業				総合	
				卸売業	小売業	飲食店	サービス業		小計
回収数									
業況判断	現在の業況	▲30.7	3.1	▲34.8	▲58.0	▲53.5	▲23.9	▲44.6	▲33.5
	3ヶ月後の業況	▲34.7	▲7.0	▲36.8	▲53.2	▲43.7	▲4.4	▲36.3	▲32.0
	半年後の業況	▲37.0	▲21.1	▲41.4	▲50.9	▲40.0	▲7.4	▲37.2	▲35.1
経営状況	売上	▲27.0	0.8	▲25.0	▲39.4	▲45.1	▲6.5	▲29.6	▲24.8
	採算	▲29.9	▲4.6	▲29.3	▲44.7	▲54.9	▲31.5	▲40.1	▲31.8
	引き合い/客数	▲22.5	1.6	▲23.9	▲40.7	▲35.7	▲23.0	▲32.5	▲24.6
	単価	▲12.7	▲2.3	▲16.3	▲30.0	▲10.0	▲25.6	▲23.7	▲17.0
	仕入価格	▲38.0	▲46.9	▲48.9	▲48.9	▲70.4	▲28.6	▲46.6	▲43.6
	資金繰り	▲27.2	▲5.3	▲30.4	▲36.7	▲43.7	▲23.7	▲33.2	▲27.5
	残業	▲27.9	▲6.9	1.1	▲14.7	▲25.0	▲26.9	▲16.4	▲19.4
	設備稼働	▲26.9	▲1.6	—	—	—	—	—	▲20.5
前期経営実績	売上水準	▲21.9	5.3	▲14.1	▲39.4	▲33.8	▲19.5	▲29.1	▲22.1
	利益水準	0.8	16.8	0.0	▲26.7	▲31.0	▲17.9	▲20.3	▲8.0
	在庫	12.9	▲2.6	5.6	5.4	▲1.4	▲41.1	▲7.3	0.5
	投資	▲10.2	▲4.8	▲5.6	▲21.3	▲17.4	▲18.0	▲17.2	▲13.1
	雇用状況	▲13.5	▲50.8	▲23.3	▲15.2	▲33.3	▲30.3	▲23.0	▲23.2

規模別DI表

		製造業		建設業		商業・サービス業		総合	
		中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業	中規模企業	小規模企業
回収数		187	169	54	69	286	239	527	477
業況判断	現在の業況	▲36.9	▲42.3	5.6	16.2	▲36.8	▲51.7	▲32.5	▲38.6
	3ヶ月後の業況	▲38.9	▲44.2	▲22.2	▲16.1	▲32.2	▲48.5	▲33.5	▲42.6
	半年後の業況	▲31.9	▲41.4	▲31.5	▲27.4	▲33.3	▲47.7	▲32.6	▲42.6
経営状況	売上	▲30.1	▲43.1	▲7.4	▲1.5	▲30.5	▲54.8	▲27.9	▲42.9
	採算	▲36.6	▲36.3	▲1.9	▲10.3	▲37.7	▲44.9	▲33.6	▲36.9
	引き合い/客数	▲25.7	▲35.1	▲11.1	▲11.9	▲30.4	▲54.6	▲26.8	▲41.6
	単価	▲9.2	▲15.0	▲5.6	1.5	▲26.1	▲33.2	▲18.0	▲21.7
	仕入価格	▲31.6	▲33.9	▲18.5	▲40.3	▲31.9	▲43.0	▲30.4	▲39.4
	資金繰り	▲25.7	▲29.5	▲5.6	▲15.2	▲30.5	▲40.7	▲26.2	▲33.1
	残業	▲29.4	▲33.3	0.0	▲15.4	▲26.9	▲26.6	▲25.0	▲27.5
	設備稼働	▲32.1	▲32.7	▲9.3	▲9.7	—	—	▲27.0	▲26.4
前期経営実績	売上水準	▲20.9	▲24.0	7.5	1.5	▲21.9	▲41.9	▲18.5	▲29.3
	利益水準	7.0	▲4.8	24.1	9.0	▲11.6	▲33.1	▲1.3	▲17.1
	在庫	13.1	5.6	▲2.0	0.0	▲0.7	▲5.2	4.1	▲0.7
	投資	▲12.8	▲8.4	▲5.9	▲9.7	▲11.0	▲25.7	▲11.2	▲17.2
	雇用状況	▲19.3	▲12.7	▲53.8	▲49.2	▲19.9	▲13.9	▲23.1	▲18.5

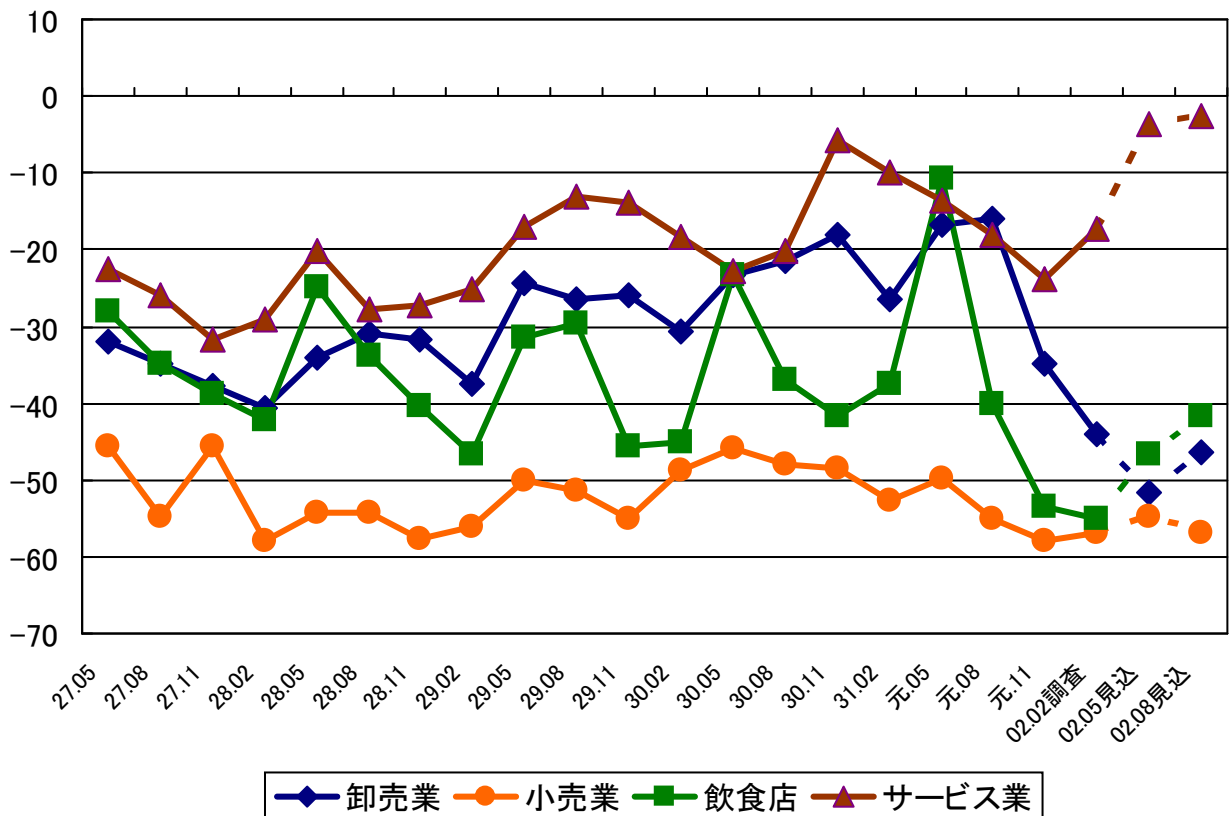
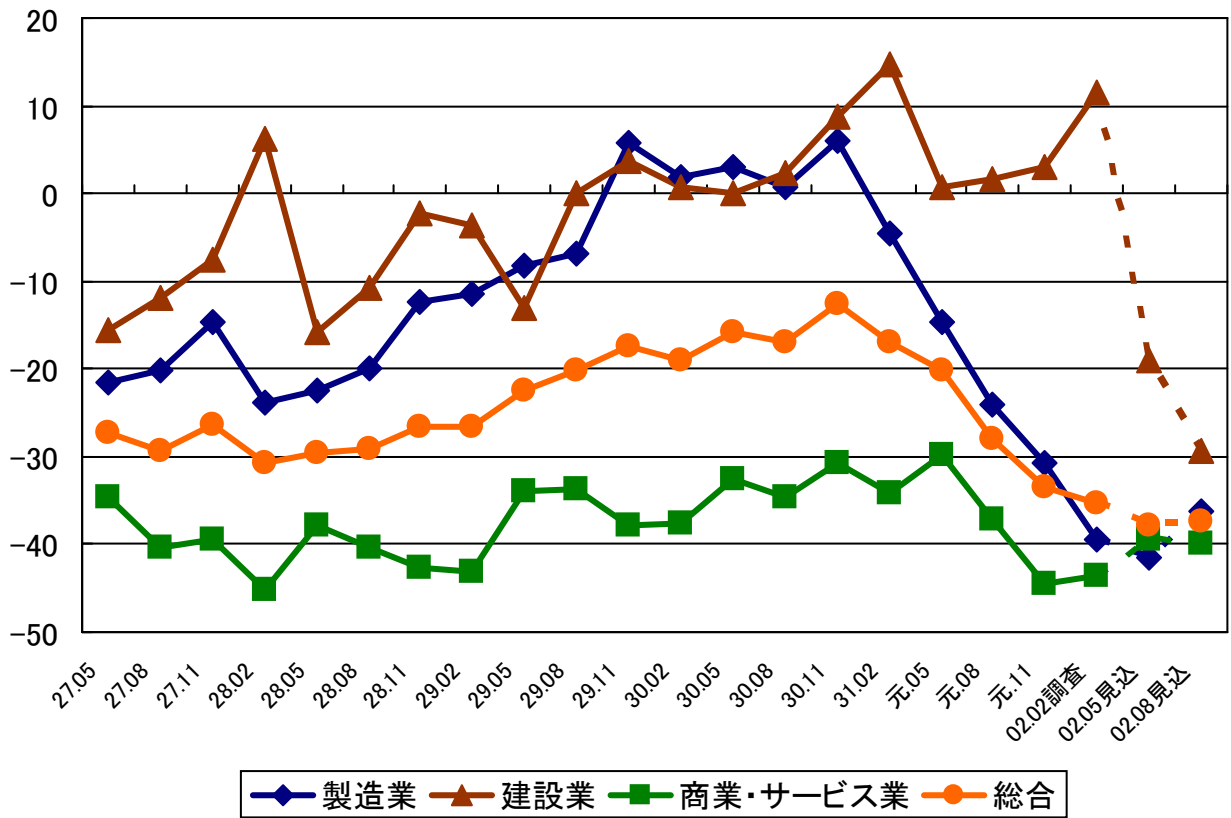
地区別DI表

		横浜	川崎	横須賀	平塚	藤沢	相模原	厚木	足柄上・西湘	総合
回収数		265	137	101	98	95	92	108	108	1,004
業況判断	現在の業況	▲31.7	▲27.2	▲46.0	▲33.7	▲44.2	▲34.4	▲26.9	▲48.1	▲35.4
	3ヶ月後の業況	▲40.9	▲27.6	▲37.0	▲37.2	▲45.7	▲36.7	▲25.5	▲50.5	▲37.8
	半年後の業況	▲41.4	▲33.6	▲32.3	▲41.5	▲39.8	▲35.2	▲26.0	▲43.6	▲37.3
経営状況	売上	▲31.8	▲25.7	▲33.7	▲40.6	▲40.0	▲41.1	▲32.1	▲44.2	▲35.0
	採算	▲34.0	▲30.9	▲38.4	▲36.1	▲40.0	▲31.9	▲34.3	▲39.0	▲35.1
	引き合い/客数	▲36.4	▲21.3	▲33.7	▲33.7	▲44.2	▲41.3	▲19.6	▲42.1	▲33.8
	単価	▲17.3	▲11.2	▲29.0	▲26.8	▲21.1	▲6.6	▲15.1	▲36.2	▲19.7
	仕入価格	▲37.9	▲26.9	▲31.7	▲35.7	▲34.7	▲30.3	▲31.8	▲44.8	▲34.6
	資金繰り	▲26.5	▲18.7	▲39.6	▲23.5	▲35.5	▲31.9	▲23.1	▲45.7	▲29.5
	残業	▲24.2	▲20.9	▲21.0	▲22.9	▲29.8	▲25.8	▲27.8	▲41.0	▲26.2
	設備稼働	▲25.4	▲22.4	▲15.0	▲34.6	▲38.1	▲32.7	▲24.1	▲23.3	▲26.7
前期経営実績	売上水準	▲23.6	▲17.2	▲28.0	▲29.6	▲25.0	▲26.1	▲15.7	▲27.1	▲23.6
	利益水準	▲8.0	▲9.0	▲17.0	▲8.2	▲11.7	▲5.4	1.9	▲14.3	▲8.8
	在庫	5.6	▲0.8	2.1	2.2	▲3.3	1.1	4.8	▲1.9	1.9
	投資	▲15.3	▲15.0	▲20.2	▲9.5	▲18.3	▲10.1	▲12.1	▲9.3	▲14.0
	雇用状況	▲18.6	▲19.5	▲32.3	▲22.1	▲21.7	▲15.6	▲18.9	▲23.1	▲20.9

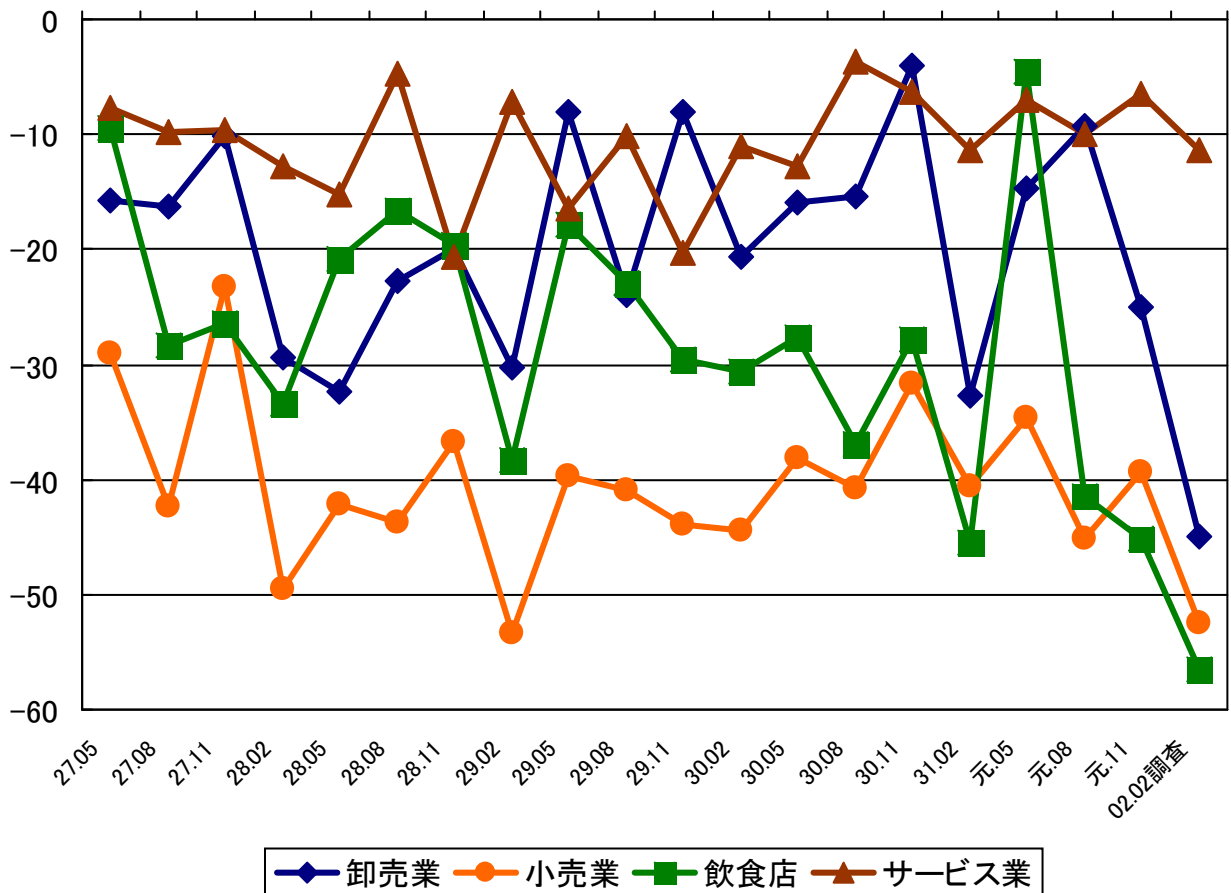
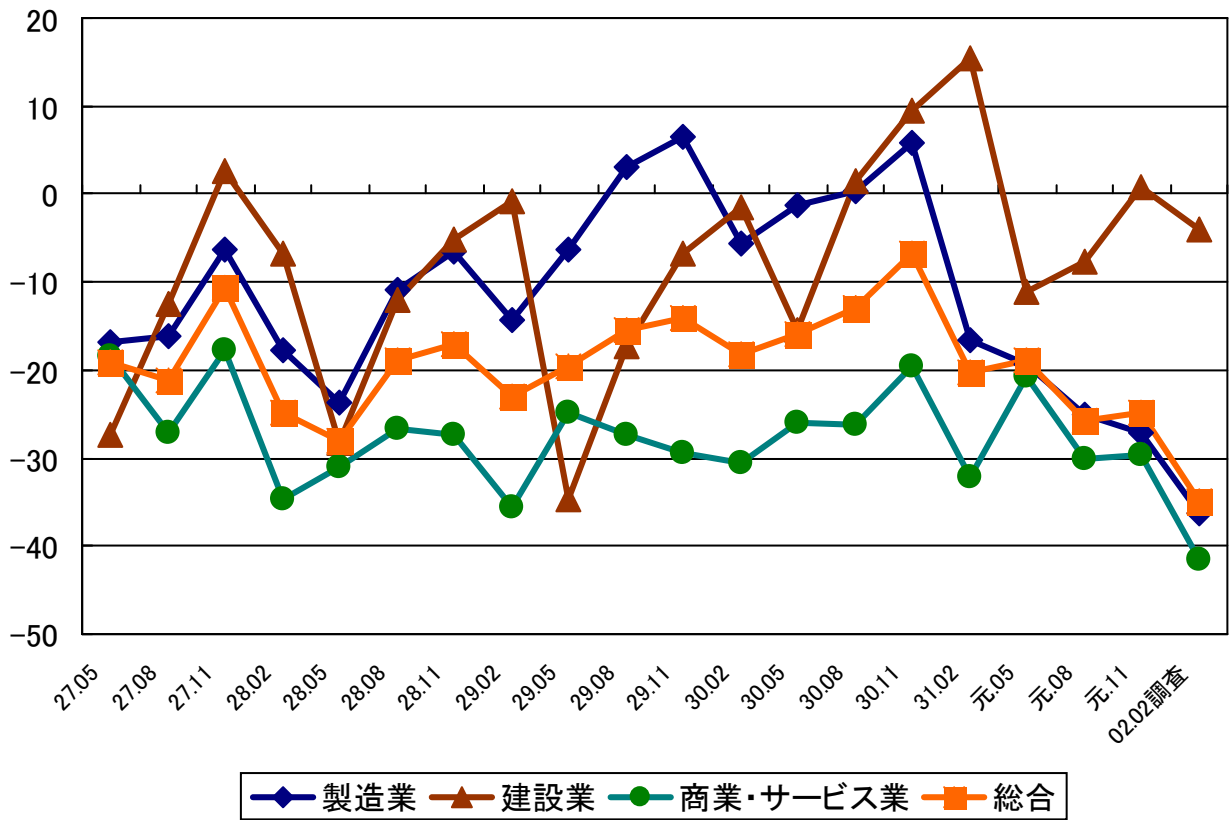
製造業中分類別DI表

		一般機械	電気機械	輸送用機械	その他	総合
回収数		90	74	61	131	356
業況判断	現在の業況	▲39.3	▲32.4	▲47.5	▲39.7	▲39.4
	3ヶ月後の業況	▲37.5	▲40.5	▲55.9	▲38.0	▲41.4
	半年後の業況	▲36.4	▲29.2	▲46.6	▲35.7	▲36.3
経営状況	売上	▲30.3	▲27.0	▲56.7	▲36.2	▲36.3
	採算	▲28.1	▲37.8	▲45.0	▲37.4	▲36.4
	引き合い/客数	▲34.4	▲21.6	▲31.7	▲31.3	▲30.1
	単価	▲12.4	▲15.1	▲8.3	▲11.5	▲11.9
	仕入価格	▲26.7	▲33.8	▲27.1	▲38.8	▲32.7
	資金繰り	▲26.1	▲18.9	▲36.7	▲29.0	▲27.5
	残業	▲32.2	▲18.9	▲56.7	▲26.0	▲31.3
	設備稼働	▲29.2	▲16.4	▲61.7	▲30.0	▲32.4
前期経営実績	売上水準	▲20.0	▲17.6	▲33.3	▲21.5	▲22.3
	利益水準	0.0	12.2	▲22.0	6.9	1.4
	在庫	8.2	12.2	7.1	10.0	9.6
	投資	▲7.9	▲10.8	▲3.3	▲16.2	▲10.8
	雇用状況	▲22.5	▲5.4	▲23.3	▲14.6	▲16.1

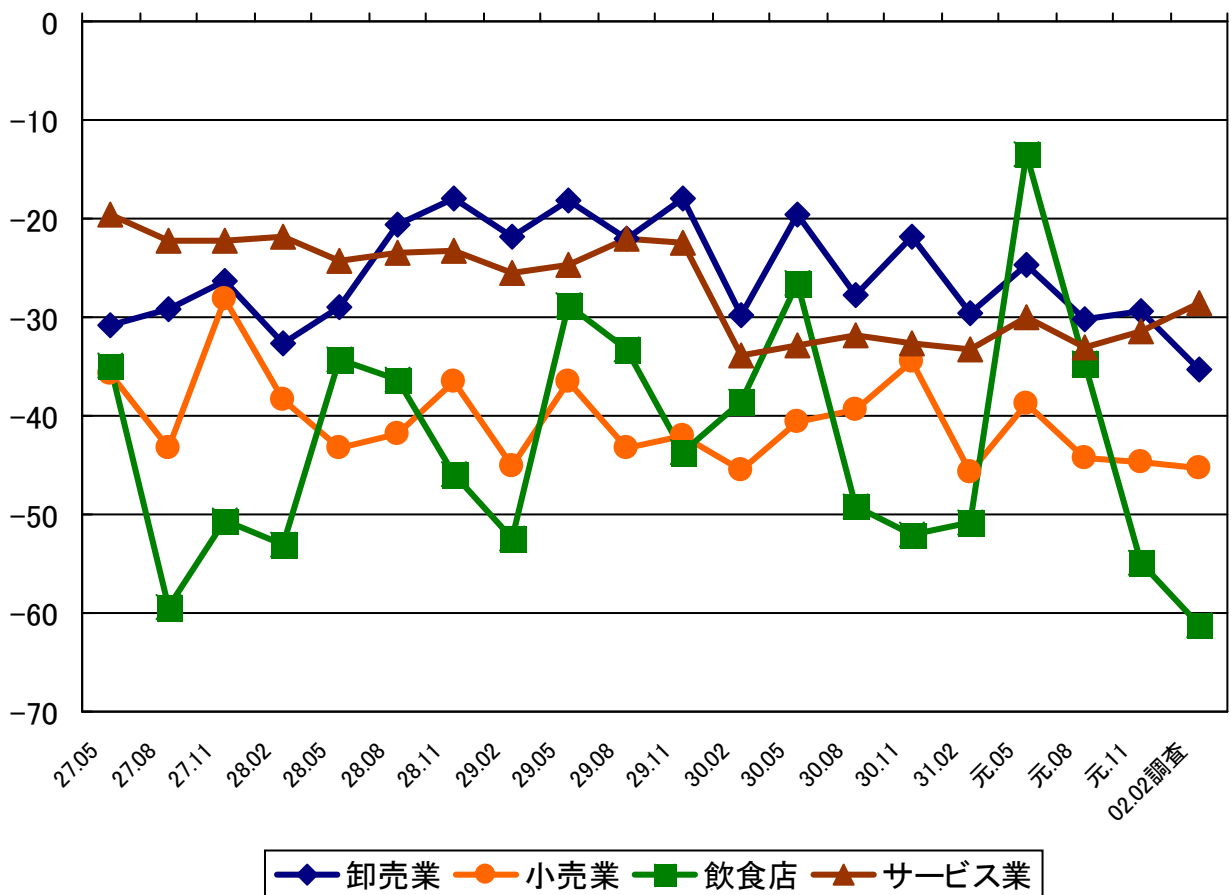
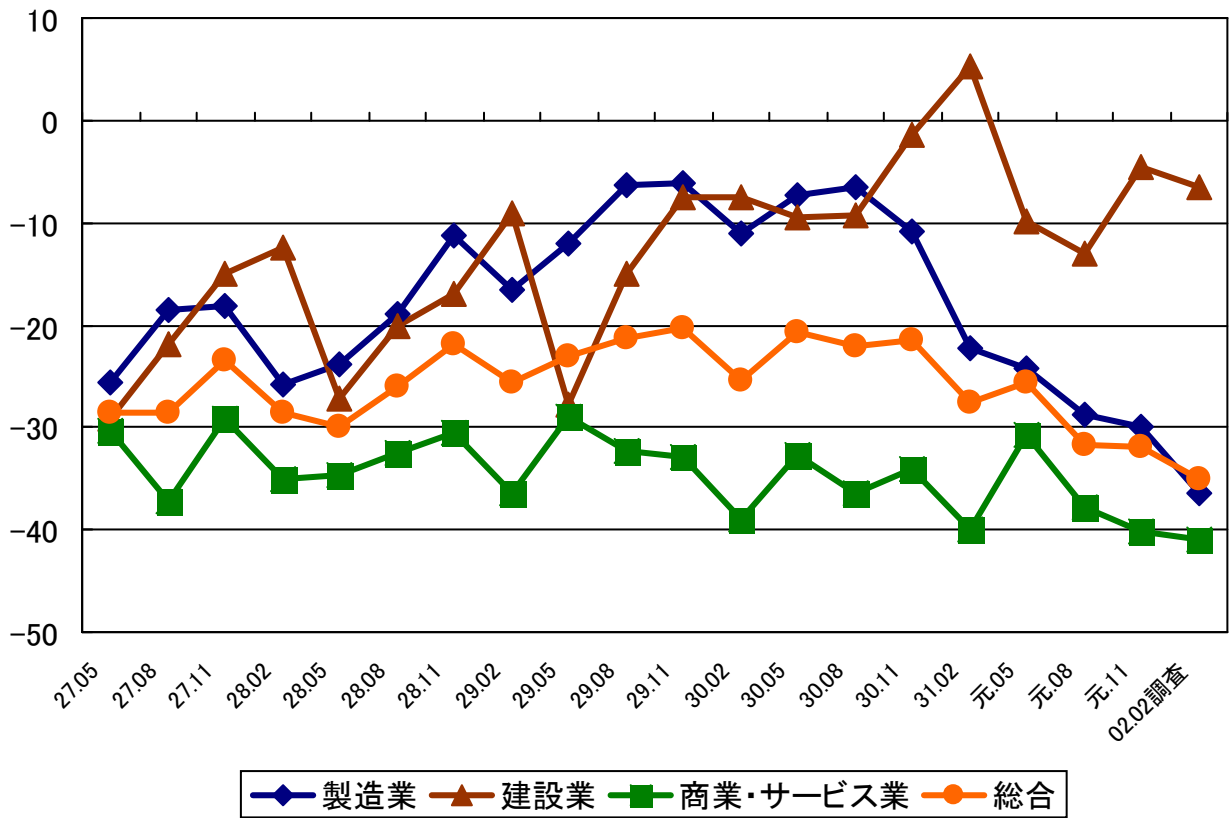
業況DIの推移



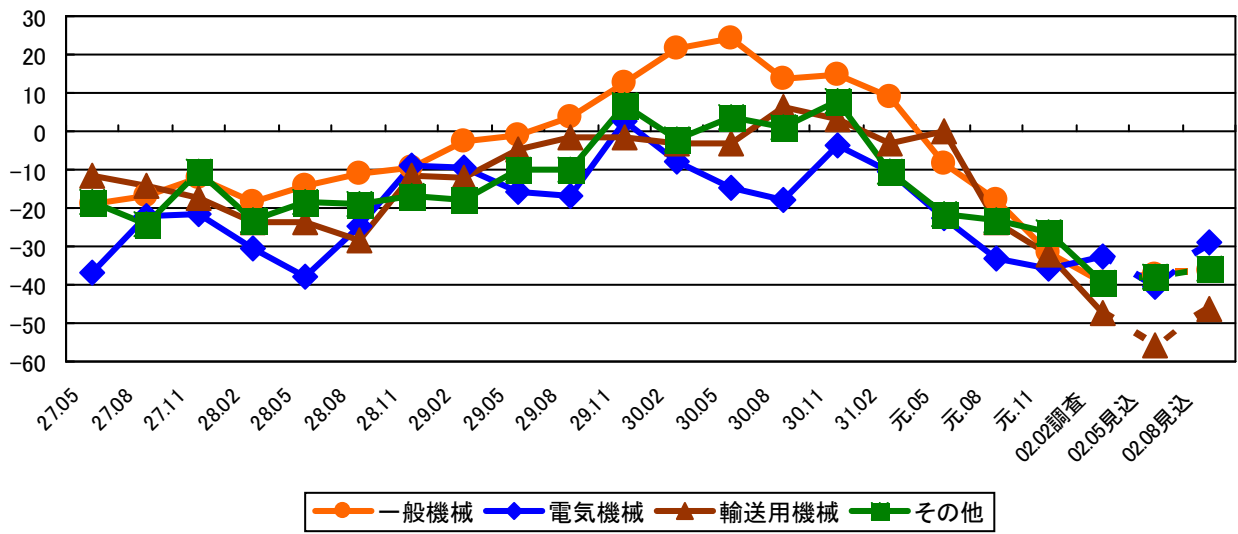
売上DIの推移



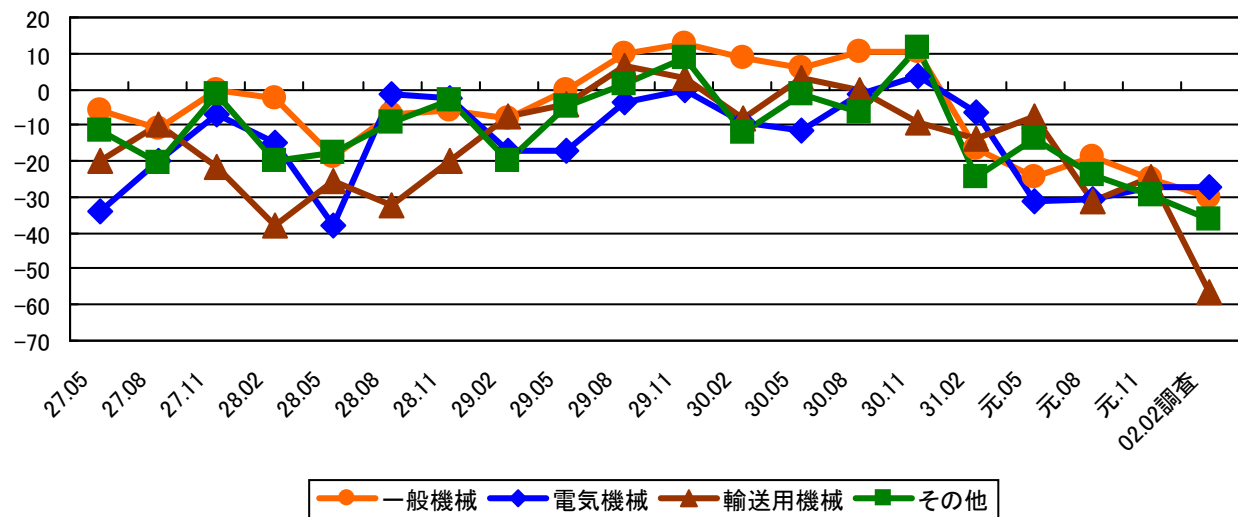
採算DIの推移



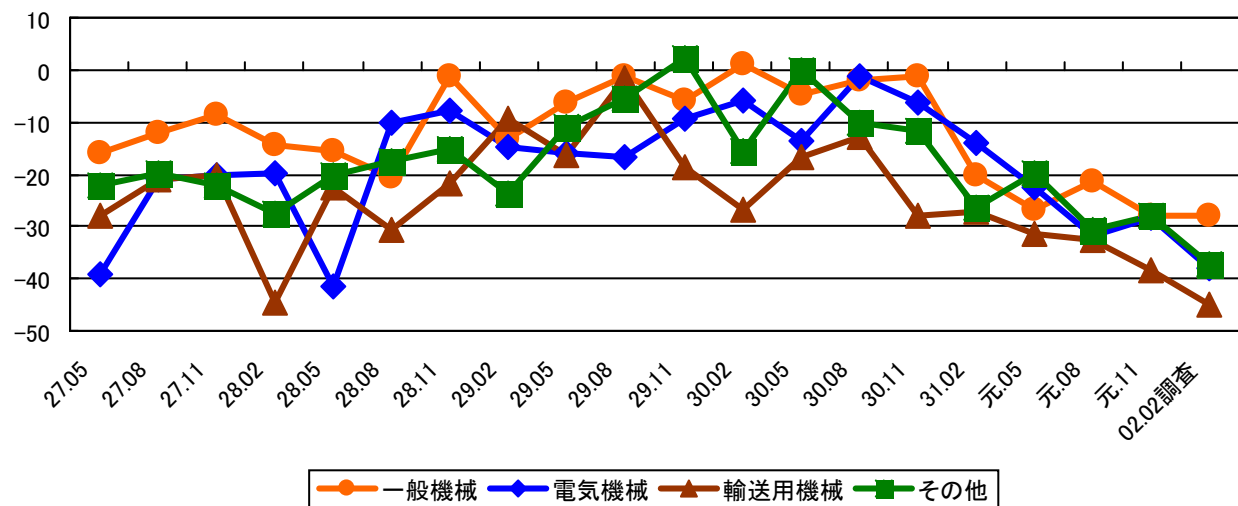
製造業(中分類)業況DIの推移



製造業(中分類)売上DIの推移



製造業(中分類)採算DIの推移



調査回答企業からのコメント(一部)

<製造業>

「海外工場（中国2か所）の今後の心配です。」
「輸出関係が不調。」
「米国向、売上好調。」
「自動車産業全般が世界的に不況。コロナウイルス、天変地異の影響が心配。」
「中国に関する部分は全て悪い。」
「コロナウイルスの影響が一部の客先に出始めている。現況は、客先の人員削減による生産移管で受注量が増加したが、4月以降は商品調達が出来ず生産減少が予見される。」
「米中貿易や、コロナウイルスでさらなる設備投資は冷え込む。」
「半導体関連の受注が昨年ごろから徐々に減少しはじめ、今年の秋口頃になってようやく回復の兆しが見えてくると思われます。」
「米中経済摩擦により、中国市場の縮小で、国内からの部材販売が減少。世界的な自動車の販売不振による。」
「自動車メーカーの新規開発案件がほとんど動いていない。動く話も半年以上先の事ばかりで見通せない。米中の問題が関係か。？」
「中国での新車販売不振が影響している。」
「新規受注が見込めるのでG/W以降仕事量が回復。新製品の受注で設備稼働回復。」
「人材、設備、バックオフィスに対する先行投資が実を結んできた。」
「ハイブリッド関連の部品好調だったが、新型肺炎の影響で、どのような変化が起きるか不安である。」
「米中貿易摩擦など不安要素が解消されない中でコロナウイルス流行が暫くマイナス要素。今期は慎重にことを進める予定です。」

<建設業>

「1月～3月期は、企業の年度末にあたり、毎年仕事量は増えます。が、4月からの受注状況が不透明です。」
「建設業界は、オリンピックを境に不況に陥ると言われています。少し不安です。」
「毎年のこの時期に大学の外構工事を、受注しているのに加え他の仕事もあり、好調であった。」
「今後は見通せない。」
「悪化する気配です。」
「引き合いは増えているが、技術者が足りない為、受注出来ない場合もある。」
「現時点では、見通しは立たない。零細企業においては今後大変な結果が現れるのではないか。」
「5月以降の仕事量が少ない。」
「4月からの見通しが、全く立たない。」
「建設業への人手不足は、当分解消されない。現況での売上を伸ばすには、無理がある。」
「引き合いそのものが減少しているので、営業を強化して行くしかない。また受注物件は細部にわたりシビアに取り組んでいく。」

<卸売業>

「得意先の業績不調や顧客の高齢化により売上の減少。」
「市場が激しく利益率低下。」
「新型コロナウイルスによる外国人観光客減少が心配。」
「働き方改革等で仕事を廻すのに苦労です。」
「オリンピック目前にして、中国の肺炎の影響がどこまで広がるのか不安。この時期に観光客が減少すれば、全体的な景気の悪化は目に見えている。」
「世界の状況が変化している中、今後の景況は激しい。」
「消費税増税の影響で、消費が落ち込んでいる。」
「消費税10%に変更後、全体的に売上が鈍っている。」
「海外輸出が売上全体の約20%であり、韓国、中国への不安がある。」
「中国の状況で今後の決まる。国内については、新規顧客を増やすよう努力している。」
「中国の新型コロナの発生で、建築資材の納期が遅れたり、受注がストップしたりしている。」

<小売業>

「近隣の大型店の出店が原因で、売上がどんどん下がる。」
「客の高齢化による買い控え。インフル（コロナ）等による購買意欲の低下。」
「昨年10月改装してからは、好調です。商品のレベルアップ大。」
「贈答用の高価格品が売れている事が良好な要因と思われる。」
「昨年から変わらず。特別に変化はない。とにかく固定費を小さくする事だけ考えています。」
「中国の新型肺炎の影響がこれからどのように出て来るか景気の見通しが不透明。」
「10月よりの消費税UPにより、カード支払いがかなり多くなり（キャッシュレス関連含む）、現金入金がかなり少なくなる。その為、資金繰り更に悪化。」
「暖冬の影響が大きく、冬物の在庫が減らない。春物が早く売れ始めている。在庫が増える。」
「コロナウイルス関係で、マスク・消毒の売上げが大幅アップ。（来年への影響あり。）」
「消費税増税が、悪影響を及ぼしている。」
「消費税増税のあおりで、売上は好調でしたが、今後わかりません。」
「前年同期と比べ取引先が増えている。10月は消費税増税の影響で、売上減となりましたが、11月下旬より回復しました。」
「人口減による売上減少。」
「ラグビーワールドカップの効果あり。本年のオリンピックもプラス要因。」
「仕入単価が上がっている。最低賃金の値上げなど、単価に転嫁でききれていないため収益が上がりません。」

<飲食店>

「今は職人が近くで工事をしているので助かってはいます。」
「新型コロナウイルス感染の恐れからキャンセル続出。」
「客単価の増加により、売上も少し増えているが、肉の仕入が高く資金繰りが大変。カード利用のお客様がが増えてきた。オリンピックの終わった後が心配。」
「国道に面しており、比較のお客様の年齢が高く、売上もやや安定している、ただ、昨年のように台風や大雨が襲来すると、売上がダウンする。その分、宴会やお祝いの予約などで挽回する。」
「10%消費税。コロナウイルス。世界経済等、不安ばかりです。」
「年末は忘年会などで売上良。年明けは思う程売上が不良。しかし利益は良。年末仕入が多めだったので、その分売上に反映されたか。」
「コロナウイルスの感染問題が更に深刻化した場合、あらゆる分野で大きな影響が出る事が予想される。」
「人手不足。賃金の上昇。」

<サービス業>

「消費意欲が感じられず、消費税アップの影響が大きい。」
「箱根は、台風15号、19号と打撃を受け、環境が変わりました。インバウンドも減ったようです。」
「良いサービスがお客様のリピートに繋がっている。同業の人手不足による注文増の面もあるかもしれない。今後もこの傾向は続く見込み。」
「全体的に消費税値上げ以降、車両販売は低調です。特に走行キロ数が10万キロを超過した車両の増加が目立っています。メーカーの販促補助金を活用しながら凌いでいるのが現状です。」
「施設の老朽化に伴う修繕費により、支出が増えている。オリンピックイヤーによるスポーツ熱の高まりを新規顧客獲得につなげられるかが業績アップのカギ。その為に宣伝広告の見直しを図る。」
「前期は顧客からの発注遅延により、売上・利益率が悪化したが、今期は回復した。今後一年程度は、オリンピック・パラリンピック、5G無線方式の開始で、好景気が続くと思っています。」
「近隣同業者の閉店により、客数がわずかだが増加が見込まれそうだが、3月より資材が値上りするので利益増は相殺される。消費税増税により、家庭洗濯が増えている。定年退職者が増え、利用しなくなっている。若者が少ないので、金を使わなくなっている。」
「2~3年前に入社した4名の外国人整備士（2級）が育っていて戦力になっている。一方ディーラーなどは、（働き方改革）で、仕事がこなせなくなっており、営業しなくても仕事が増える。弊社も残業は40Hにしているので、無理な仕事は断っている。多少設備投資して（自己資金）働きやすい事業場にしている。」
「中国での新型肺炎の影響が今後多方面で出て来るのでは。？」
「サービス単価を見直すので良くなると思う。」
「人材不足により社員の確保が難しく問い合わせはあるが、受注件数が限られる。」